

## 都技生涯研修 2025

## 全都講習会

# 近年の歯科技工士問題の 情報共有と 今後の歯科技工の 未来のために

2026.3.21 SAT 9:00-16:00

会 場 日本大学歯学部 3号館3階331講義室

**講演① 大きな転換期を迎える歯科技工士の現状と課題**  
—次の時代を見据えて

日本歯科技工士会常務理事 石川 功和 先生

**講演② 頸顎面補綴治療の実際と歯科技工士の果たす役割**  
日本大学歯学部歯科補綴学第Ⅱ講座准教授／  
日本大学歯学部付属歯科病院顎顎面補綴科科長 大山 哲生 先生

**講演③ 総合病院に勤務する歯科技工士の役割について**  
聖路加国際病院歯科口腔外科 歯科技工士 堀江 康夫 先生

**講演④ 学生への実習指導における留意点について**  
本橋 歯科補綴 Laboratory 所長 本橋 義健 先生

**講演⑤ 歯科技工士の育成について —学生教育の視点から—**  
日本大学歯学部附属歯科技工専門学校専任教員 山崎 司 先生

総 合 討 論 会

## 全都講習会 タイムテーブル

|             |      |        |
|-------------|------|--------|
| 9:00～ 9:05  | 開会式  |        |
| 9:10～10:10  | 講演①  | 石川功和先生 |
| 10:15～11:15 | 講演②  | 大山哲生先生 |
| 11:20～12:20 | 講演③  | 堀江康夫先生 |
| お昼休憩        |      |        |
| 13:00～14:00 | 講演④  | 本橋義健先生 |
| 14:05～15:05 | 講演⑤  | 山崎司先生  |
| 総合討論会       |      |        |
| 15:10～15:50 | 質疑応答 |        |
| 15:50～16:00 |      |        |

## [重要なお知らせ]

本研修会は東京都保健医療局よりの委託事業となっております。  
つきましては受講対象者は以下の方に限ります。

- ① 一般社団法人東京都歯科技工士会（都技）会員
- ② 学生
- ③ 日本大学歯学部職員
- ④ 東京都在住または在勤の歯科技工士

## [開催コード]

日技生涯研修自由研修課程申請中

## [定 員]

100名

\*定員になり次第締切させて頂きます。

## [申込開始]

- |                         |          |
|-------------------------|----------|
| ① 一般社団法人東京都歯科技工士会（都技）会員 | 2月21日(土) |
| ② 学生、③ 日本大学歯学部職員        | 2月23日(月) |
| ④ 東京都在住または在勤の歯科技工士      | 2月25日(水) |

## [受講料]

800円

\*上記受講対象者①～③の方は都技にて負担しますので無料となります。  
\*上記受講対象者④の方は会場でお支払いください。

## [申込方法]

お申し込みは右の二次元コードからお申込みください。

\*上記オンライン申込をされますと登録したメールアドレスに自動返信されますのでご確認ください。  
\*二次元コードが読み取れない方は下記アドレスまでご一報ください。

メールアドレス: [togi-info@to-ginet.com](mailto:togi-info@to-ginet.com)

## [お問い合わせ]

一般社団法人 東京都歯科技工士会

〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-2-10 ヴィップ大塚香川ビル4F

TEL 03-3576-5611 FAX 03-3576-5615

e-mail : [togi-info@to-ginet.com](mailto:togi-info@to-ginet.com)

URL : <https://www.to-ginet.com>



都技サイト

■一般社団法人 東京都歯科技工士会 主催 ■東京都保健医療局 委託

講演① | 9:10~10:10

## 大きな転換期を迎える歯科技工士の現状と課題 —次の時代を見据えて—

近年、日本の歯科技工士を取り巻く環境は、大きな転換期を迎えており、就業歯科技工士数の減少や高齢化、働き方や教育を巡る課題など、現場では将来への不安の声が少なくない。一方で、歯科医療は高齢化社会への対応や医療ニーズの多様化が進み、歯科技工士に求められる役割も質的な変化を伴いながら拡がりつつある。

こうした状況の中で、CAD/CAMやAIに代表されるデジタル技術は、歯科技工の在り方に新たな可能性をもたらしている。デジタル化は単なる作業効率化の手段ではなく、従来アナログ技工の中で培われてきた知識や経験を整理し、共有し、次世代へつなぐ契機ともなり得る。一方で、症例ごとの判断や美的感性、歯科医療に携わる専門職としての倫理観など、人にしか担えない領域の重要性も改めて認識されている。

本講演では、歯科技工士を巡る現状と課題を整理するとともに、デジタル技術と人の専門性が協働することで開かれる未来像について展望する。歯科技工士という専門職の価値を再確認し、持続可能な歯科技工の未来を考える一助としたい。



講師 石川 功和 先生

日本歯科技工士会 常務理事

## 【略歴】

1974年3月 日本大学歯学部附属歯科技工専門学校卒

## 【職歴】

1974年4月 村岡歯科勤務

1993年9月 村岡歯科退職

1993年10月 IAC開業 現在に至る

2017年7月 東京都歯科技工士会会長 現在に至る

2017年6月 日本歯科審美学会副理事長 現在に至る

2022年6月 日本歯科技工学会会長 現在に至る

2022年6月 日本歯科技工士会常務理事 現在に至る

## 【所属学会】

日本歯科審美学会／日本歯科技工学会／日本デジタル歯科学会

社会歯科学会／日本顎咬合学会

講演② | 10:15~11:15

## 顎顔面補綴治療の実際と歯科技工士の果たす役割

顎顔面補綴とは、補綴治療の一分野であり、腫瘍、外傷、炎症、先天奇形などが原因で、顔面または顎骨とその周囲組織に生じた欠損等に対し、非観血的に、あるいは再建やインプラント手術との併用により人工物で補填・修復し、失われた機能と形態の回復を図る治療である。すなわち、通常の補綴治療と同様に、顎顔面補綴治療でも補綴装置製作という観点から歯科技工士の果たす役割は極めて大きい。顎顔面補綴は、日本歯科専門医機構の認定する補綴歯科専門医認定に課される難症例に対する治療記録と口頭試問において、難症例として例示される非常に難易度の高い補綴治療でもある。しかし、歯科技工士はその補綴装置製作に関して、卒前に十分な基礎教育がなされている場合が少ないと考えられる。しかも、補綴的な超難症例に対して担当医（口腔外科医、補綴医、一般歯科医等）との密な連携が必須となるとともに、その装置が直接患者の治療結果やQOL（咀嚼、嚥下、発音機能）に影響することとなる。

本講演では、顎顔面補綴治療として製作されている各種補綴装置を供覧しつつ、治療チームの一員として歯科技工士に必要な知識や技術について解説したいと考えている。



講師 大山 哲生 先生

- 日本大学歯学部  
歯科補綴学第Ⅱ講座准教授
- 日本大学歯学部付属歯科病院  
顎顔面補綴科科長

## 【略歴】

1991年 日本大学歯学部卒業

1995年 日本大学大学院歯学研究科歯科臨床系修了

1999年 日本大学助手 歯学部勤務

2007年 日本大学専任講師 歯学部勤務

2008年～2009年

日本大学長期海外派遣研究員 (UCLA顎顔面補綴科)

2010年 日本大学歯学部付属歯科病院顎顔面補綴科医局長

2014年 日本大学歯学部診療准教授

2025年 日本大学准教授 歯学部勤務

2025年 日本大学歯学部付属歯科病院顎顔面補綴科科長

講演③ | 11:20~12:20

## 総合病院に勤務する歯科技工士の役割について

近年、歯周病が心疾患や糖尿病、誤嚥性肺炎など全身疾患に及ぼす影響が注目されています。また、周術期管理の重要性が注目され、特に口腔内の衛生管理が術後の肺炎や創部感染などの合併症につながることがあり、術前の口腔ケアが重要視されています。

私が勤務する聖路加国際病院においても2018年に周術期センターが開設され、医科と歯科が連携して患者のより良い治療を目指しています。そのような背景の中で、私は歯科技工士として医科、歯科の分野での役割を日々模索しています。

今回は、睡眠時無呼吸症候群のマウスピース、舌接触補助床など当院で行われている歯科技工を紹介しながら、総合病院に勤務する歯科技工士として役割と題してお話をさせていただきたいと思います。



講師 堀江 康夫 先生

聖路加国際病院歯科口腔外科  
歯科技工士

## 【略歴】

1990年 日本大学歯学部附属歯科技工専門学校卒業

同年 国際デンタルアカデミーラボテックススクール入学

1991年 同スクール卒業後、個人経営の歯科技工所に勤務

1993年 聖路加国際病院入職

2026年現在

同病院 歯科口腔外科で歯科技工士として勤務

講演④ | 13:00~14:00

## 学生への実習指導における留意点について

近年の学生教育においては、従来の知識の伝達だけでなく、学生一人ひとりの成長を促すための指導方法やコミュニケーションの取り方に多くの配慮が求められています。私は、日本大学歯学部歯科技工専門学校の兼任講師として、実習指導に携わる中で、これらのポイントを意識して指導を行っています。

まず、専門用語の適切な使用についてです。例えば、「各個トレー」や「硬質レジン」といった用語は、学生にとって理解しやすいように、「個人トレー」や「間接修復用コンポジットレジン」といった正式な名称を用いるよう心掛けています。これは、専門用語の誤用や曖昧さを避け、正確な知識の習得と伝達を促進するためです。学生が正しい用語を理解し、それらの言葉に対して単なる記号としてだけでなく、つながりのある体系的なイメージを持つことができるようになると、実務においても適切に使いこなせるようになります。こうしたことば、将来的な技術の向上にも直結します。

次に、学生との接し方についてです。特に意識しているのは、学生の話にしっかりと耳を傾け、決して怒らず、尊重の姿勢を持つことです。学生は多くの不安や迷いを抱えながら学んでいます。彼らの意見や考えを尊重し、安心して質問や相談ができる環境を整えることが、信頼関係の構築には不可欠です。こうした環境があれば、学生は積極的に学び、自らの成長を促すことができると言えています。

これらのポイントについて、具体的な事例を交えながら、歯科技工所における新人歯科技工士との円滑なコミュニケーションに役立つお話をさせていただきたいと思います。



講師 本橋 義健 先生

本橋 歯科補綴 Laboratory 所長

【略歴】  
2014年～2017年  
全部床義歯工学（日本大学歯学部兼任講師）

2014年～2017年  
口腔顎顔面解剖学（日本大学歯学部兼任講師）  
2018年～2019年  
歯科理工学（日本大学歯学部兼任講師）

2020年～現在  
歯冠修復技工学（日本大学歯学部兼任講師）

【所属】  
本橋 歯科補綴 Laboratory 所長

講演⑤ | 14:05~15:05

## 歯科技工士の育成について

### —学生教育の視点から—

昨今、歯科技工士の減少に伴い歯科技工士の育成に対する期待や要望が高まっている。私は専任教員になってから、歯科技工士育成の重要性やその使命を強く意識するようになった。

学生教育の現場から感じるのは、私が学生だった時と比べて様々な悩みを抱える学生が増えている点と各学生の学習習熟度の差の大きさである。また、教育の質を考えた時に、限られたリソースの中で教員一人が一人の学生にかけられる時間が十分であるとは言い難い。

このような学校環境の中で、私は教員として学生一人ひとりに向き合い、学生の悩みや課題に応じた教育を行うことの重要性を強く感じており、いかにして教育の質を向上させるかを日々模索している。

例えば、近年では精神的な課題を抱える学生が増えており、そのケアをしながら指導を行うことが日常的になっている。また、各学生間の知識的、技術的な差が大きくなっている。授業の進め方を工夫する必要がある。当然のことながら、学生指導においてハラスメントや差別があってはならない。歯科技工士教育において、知識や技術を教えるだけでなく、教える側に求められるのは相手を尊重したコミュニケーション力であると考えている。

今回の講演では、まず本校の歯科技工士教育について紹介する。その上で私が感じている歯科技工士育成における課題点について取り上げたい。その上で、本校や私が学生教育において工夫していることや、指導する上で気を付けていることに焦点を当てて紹介する。歯科技工士育成における多様な現状や取り組みを皆様と共有し、歯科技工士育成の一助になれば幸いである。



講師 山崎 司 先生

日本大学歯学部附属歯科技工専門学校 専任教員

【略歴】  
2013年  
日本大学歯学部附属歯科技工専門学校卒業

2014年  
マスターセラミストスクール ナイトコース修了

2016年～2023年  
有床義歯工学 日本大学歯学部兼任講師

2024年～現在  
日本大学歯学部附属歯科技工専門学校 専任教員